

〈大会規定〉

- 【大会方法】** 1 本大会は、予選リーグの結果、決勝トーナメントを行う。
予選リーグは、参加チームを2つのリーグに分け、それぞれ総当たり戦とする。
決勝トーナメントは、予選の各リーグ上位2チームで、勝ち抜き戦を行い、優勝を決める。
- 2 予選の各リーグ上位2チームの決定方法は次のとおりとする。
- 1) 勝ち点で順位を決める。
- 勝ち点：点差コールドによる勝ちを5点
通常での勝ちを3点
延長での勝ちを2点
引き分け1点
負け0点
- 2) 勝ち点と同じ場合
- ① 直接対決の勝者
② 失点率の少ないチーム
③ 得失点差
- 【登録メンバー】** 3 出場選手は、令和4年度9月現在中学生として連盟への登録済みの者に限る。審査証は令和4年度発行のものとする。代表、監督、コーチ、マネージャーは、各1名とし、選手はスポーツ安全保険加入の11名以上25名以内とする。
合同チームを認める。
- 【試合日程】** 4 大会日程は、大会事務局より随時配信する。
予定された日程において、当日何らかの理由で試合を行うことのできない場合は変更希望の旨を、早めに（遅くとも1週間前までに）大会事務局に申し出ること。また、相手チームの代表にも一報を入れること。
その後、大会事務局が再日程を出す。
ただし、1週間以内は、没収試合となり、相手の不戦勝とする。（救済は5）
- 【試合救済措置】** 5 当日9名に満たない場合はチーム間の話し合いで、当該チーム以外の他チームの選手をその試合のみレンタルができる。その場合は、当日本部に届け出ること。
- 【球場責任者】** 6 当日、球場責任者は各試合の代表が務める。代表が来られない場合は、副代表が代表代行として務める。
- 【ダグアウト】** 7 試合のダグアウト（ベンチ（一塁側及び三塁側））は、対戦表のとおりとする。
- 8 当日、登録された選手及び登録された代表・監督・コーチ・マネージャーのみベンチに入ることができる。
- 9 監督（背番号60）・コーチ（背番号50）は、ユニホームを着用すること。
- 【試合開始前】** 10 試合開始時間1時間前に試合会場に到着し、到着と同時にオーダー表5部等必要書類を本部に提出し所定の審査を受けること。（審査は感染症対策を考慮する）
- 11 攻撃順は、オーダー表交換時に両キャプテンのジャンケンにより、先攻・後攻を決める。
- 12 試合開始前までにチームがグラウンド内に現れないとき、主審は、没収試合を宣言することができる。

- 【シートノック】** 13 シートノックは5分とする。ただし、天候等の状況により判断する。
また、捕手及び補助員がヘルメット無着用の場合、本部から指導注意が入れば、途中でもシートノック等をやめさせることがある。
- 【試合方法】** 14 試合は、球数制限で行う。
15 試合は、7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は、開始から2時間を超えた場合、新しいイニングに入らない。
16 予選リーグは、2時間の時間制限とし、同点の場合、時間内であれば通常延長を認める。ただし、2時間を越えて勝敗が決まらない場合は引き分けとする。
17 決勝トーナメントは、2時間の時間制限とする。同点の場合、時間内であれば1イニングに限り通常延長とし、それでも勝敗が決しない場合は、特別延長「タイブレーク」(※詳細は別記)を実施する。
18 4回終了時10点差、5回以降7点差の場合は、コールドゲームとする。
19 試合成立後、日没の場合は、コールドゲームとする。
20 日没、雨天等により4回未満で試合が中止された場合は、ノーゲームとする。
- 【ボール回し】** 21 ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。ただし、打者が打撃途中に、塁上で走者がアウトになった場合についてのボール回しは禁止する。
- 【指示・伝達】** 22 攻守で監督及びコーチの指示・伝達は1試合で各2回、計4回を限度とする。延長に入った場合は、各1回の指示・伝達を認める。指示・伝達は審判がタイムを宣告してから、「30秒以内」とする。
ただし、選手の怪我や、選手交代などは回数をカウントしない。
23 守備側の指示・伝達が3回目以降は、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
24 内野手(捕手を含む)が、2人以上投手のところに行った時もタイム1回に数える。
- 【抗議・疑義】** 25 監督・コーチ及び選手は、審判のジャッジに対して、絶対に服従し、抗議することを厳禁とする。ただし、規則上の疑義の申し出については、必ず監督または当該選手のみが、審判に説明を求めることができる。この場合「3分以内」とする。
- 【禁止事項】** 26 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
27 投手は、走者をアウトにする意思がなく、無用のけん制球を繰り返す、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合進行の妨げと捉え違反投球とする。
28 ベンチ内での携帯電話等の使用を禁止する。
- 【用具・道具】** 29 ユニフォーム・バット・スパイク・グラブ等は、連盟指定業者のものに限る。
30 ヘルメットを1チーム7個以上完全なものを備えること。(各チーム持参すること)
31 捕手は、必ずヘルメット並びに規定防具を試合及び練習を問わず着用すること。
- 【その他】** 32 グラウンドの都合等で大会規定と別に制定された場合はそれに従うこと。

タイブレーク実施細則

1 特別規則

- (イ) 中学生の部は7回あるいは試合開始から2時間を超えて（いずれか早いほう）決勝トーナメント7回あるいは2時間を超えて（いずれか早いほう）両チームの得点が等しいとき以降の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者とする。
- (ニ) この場合の代打および代走は認められる。

2 チーム及び個人記録

チーム及び個人記録は公式記録とするが、以下にあげる事項は留意すること

- (イ) 投手記録
 - ・ 規定により出塁した3塁走者は、投手の自責点とはしない。
 - ・ 完全試合は認めない。
 - ・ 無安打、無得点試合は認める。

- (ロ) 打撃成績
 - ・ 規定により出塁した3走者の出塁はないものとする。
ただし、盗塁、盗塁死、得点残塁などは記録する。
 - ・ 規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。